研究データ作業部会
活動報告
2019-2021

研究データ作業部会

【オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021】
（戦略1.）オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。

【活動計画】

1.1 研究データ対応を見据えた国内機関リポジトリの役割、機能要件を明らかにし、研究データを公開する基盤に関する整備を行う。

1.2 国内外の関連機関と連携し、研究データの情報流通促進及び評価に関する活動を行う。

1.3 研究データの管理・共有・公開を促進するため、研究支援に携わる職員の意識、スキルの向上を図り、会員機関における活動を支援する。

1.RDM（研究データ管理）教材の作成・公開（1）

2015 → 2016 → 2017 → 2018 → 2019 → 2020 → 2021

機関リポジトリ推進委員会	JPCOAR研究データTF	JPCOAR研究データ作業部会
国内向け教材「RDMトレーニングツール」開発	2017.6「**RDMトレーニングツール**」公開	
	2017.11-2018.1 JMOOC/gaccoにて「**オープンサイエンス時代の研究データ管理**」開講	
	支援者向け教材の開発 2018.8 教材「**研究データ管理サービスの設計と実践**」公開	第2版の開発 2021.2 教材「**研究データ管理サービスの設計と実践**」**第2版**公開
	2018.8-10 教材試用プロジェクト（参加機関18）	2019.9-12 学認LMSによるオンライン講座試験運用（参加機関22） 2021.6 NIIが学認LMSを正式運用開始
2016.4 NISO入門書「**研究データ管理**」の日本語訳公開		研究者向け教材の開発 2020.10 教材「**研究者のための研究データマネジメント**」公開

1.RDM（研究データ管理）教材の作成・公開（2）

【教材】

・支援者向け教材「研究データ管理サービスの設計と実践」第2版（2021.2.10公開）
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607

・研究者向け教材「研究者のための研究データマネジメント」（2020.10.30公開）
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/294

【その他の成果】

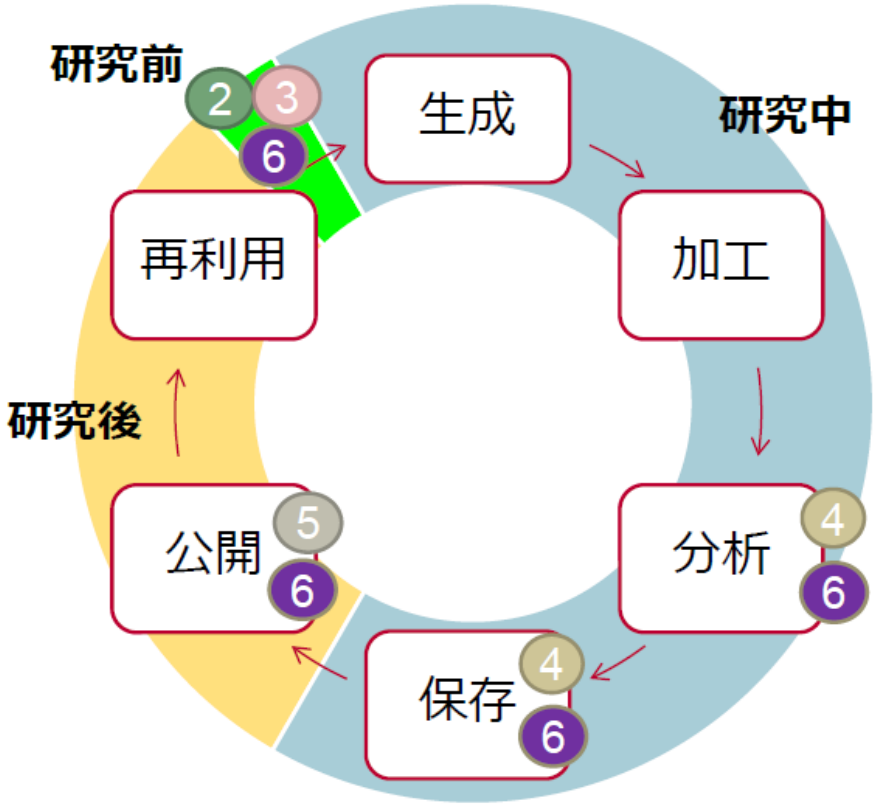
・「研究データ管理（RDM）教材作成チーム活動報告書 2019-2020」（2021.4.22公開）
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000002

・「日本における研究データ管理教材の開発経緯」『情報の科学と技術』71（4）（2021.04.01公開）
https://doi.org/10.18919/jkg.71.4_187

・「学認LMSによる研究データ管理に関するオンライン講座試験運用報告書 2019」（2020.4.30公開）
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/238

1-1.支援者向け教材「研究データ管理サービスの設計と実践」

【研究データのライフサイクル】



・The UK Data Service, Research data lifecycle
http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle
・Mariette van Selm, RDM Support - basic training course for information specialists
http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313　を元に加工

【本教材の構成】

1章　序論
2章　サービス設計
3章　研究前の支援
4章　研究中の支援
5章　研究後の支援
6章　日常的な支援

旧教材への意見や要望を受けて、新たな教材を作成。

【新規教材作成のポイント】
・ターゲットの明確化
→研究支援職員
・より実践的・具体的な内容に
→研究前・研究中・研究後という研究の流れに基づく内容
・アクセス性の向上、機関管理機能→開発予定の学認LMSによる提供
・モニター館からのフィードバックによる改善

第1版　2018年8月31日公開
第2版　2021年2月10日公開

JPCOAR
オープンアクセスリポジトリ推進協会

1-2.研究者向け教材「研究者のための研究データマネジメント」

研究前

1.外部資金の獲得
2.申請書類（DMP）の作成
3.所属機関のインフラ活用

研究中

1.研究データの保存
2.研究データの検索・発見・収集
3.データ分析
4.加工・分析中のデータ管理
5.DMPの更新

研究後

1.データの引用
2.データの公開方針の決定
3.リポジトリへのデータ登録
4.データ論文を通じたデータ公開

研究者向けの教材が必要という意見を受け、新たな教材を作成

【新規教材作成のポイント】

・ターゲットは研究者に設定

・必要な部分のみ受講できるように、テーマに分けて教材を分割

・学認LMSへの対応を想定

第1版　2020年10月30日公開

1-3.学認LMSによるRDM教材の提供

GakuNin LMS　　日本語 (JA)

研究者のための研究データマネジメント

Home / コース / NII提供コース2 / rdm-03 / 登録オプション

登録オプション

研究者のための研究データマネジメント

講座内容

研究支援者としての目線から、大学や研究機関等に所属する研究者の方に向けて作成された教材です。
研究データ管理の場面に応じた12のテーマ別に分かれており、研究者自身が本教材によって必要な知識を得ることを想定しています。

研究前：

1. 外部資金の取得（学習時間：約5分）

外部資金の取得にあたり、研究データ管理との関連の観点から押さえておきたいポイントを学びます。

2. 申請書類（DMP）の作成（学習時間：約9分）

データ管理計画（DMP）の作成方法を学びます。

3. 所属機関のインフラ活用（学習時間：約6分）

研究データ管理を行う上で必要となる所属機関のインフラの活用について学びます。

研究中：

4. 研究データの保存（学習時間：約19分）

研究データの保存先を検討する上でのポイント、情報セキュリティ対策、バックアップをする時の注意点などを学びます。

2021年6月正式運用開始

現在の提供コンテンツ

【研究データ管理講座】

・「研究者のための研究データマネジメント」コース

・「研究データ管理サービスの設計と実践」コース

・「オープンサイエンス時代の研究データ管理」コース

【その他】

・情報セキュリティ講座「倫倫姫の情報セキュリティ教室」

2.データベースレスキュー

失われゆく過去の研究データ

・「科研費の助成を受けて作成されたデータベースの約半数が適切に管理されていない」（2016年及び2019年調査による）

・管理者がいなくなると、維持管理が困難

⇒リポジトリ等がその受け皿になれないか？

【成果】

・「データベースレスキューマニュアル ver.1.0」（2021.4.22公開）

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000001

・「データベースレスキュープロジェクト：2019年度の活動とレスキュー事例」（2020.4.30公開）

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/237

2-1.データベースレスキューマニュアル ver.1.0

1. はじめに
2. データベースのキュレーション
3. レスキューの前準備
4. レスキューの手順
5. レスキューしたデータベースの維持管理
6. データベースの取下げ・消去
7. データベースの維持可能性向上のための研究者向けアドボカシー
8. 今後の課題

付録：システムを含めてのデータベースをレスキューする場合の技術的な課題

3.RDM（研究データ管理）事例形成

大学ICT推進協議会研究データマネジメント部会（AXIES-RDM部会）との連携事業

【目的】国内大学・研究機関において、研究データ管理の取組み事例を形成し、その成果を「事例集」として取りまとめることにより、他大学・研究機関におけるRDM取組み拡大を図ること

【参加機関】18機関（2021年10月現在）→メンバーミーティングを4回実施

【RDM事例形成プロジェクトのウェブページ】 https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/project/rdm%E4%BA%8B%E4%BE%8B%E5%BD%A2%E6%88%90%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88?authuser=0

【成果】

・「2020年度RDM事例形成プロジェクト中間報告書」（2021.4.22公開）

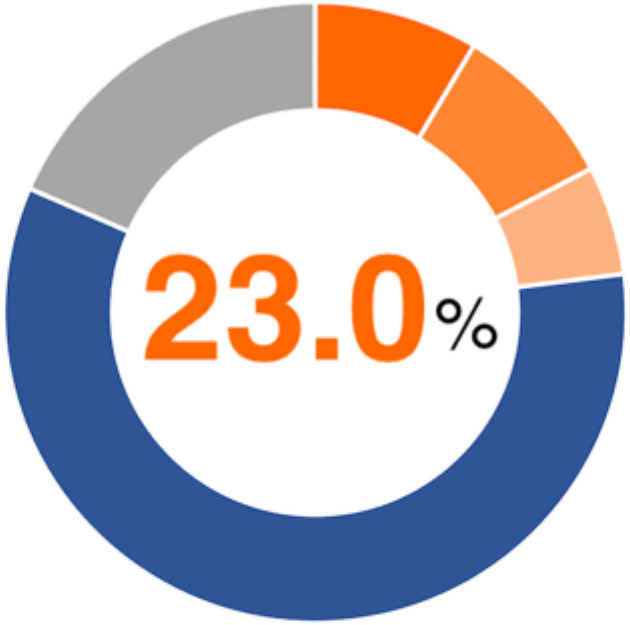
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000003

・「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」（2020.11.27-12.28実施）

全46問、有効回答：352機関→今年度、NISTEPとの共同分析を実施中

3-1.国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査(1)

Q10.機関全体での研究データ管理体制構築に向けた取り組み状況【n=352】



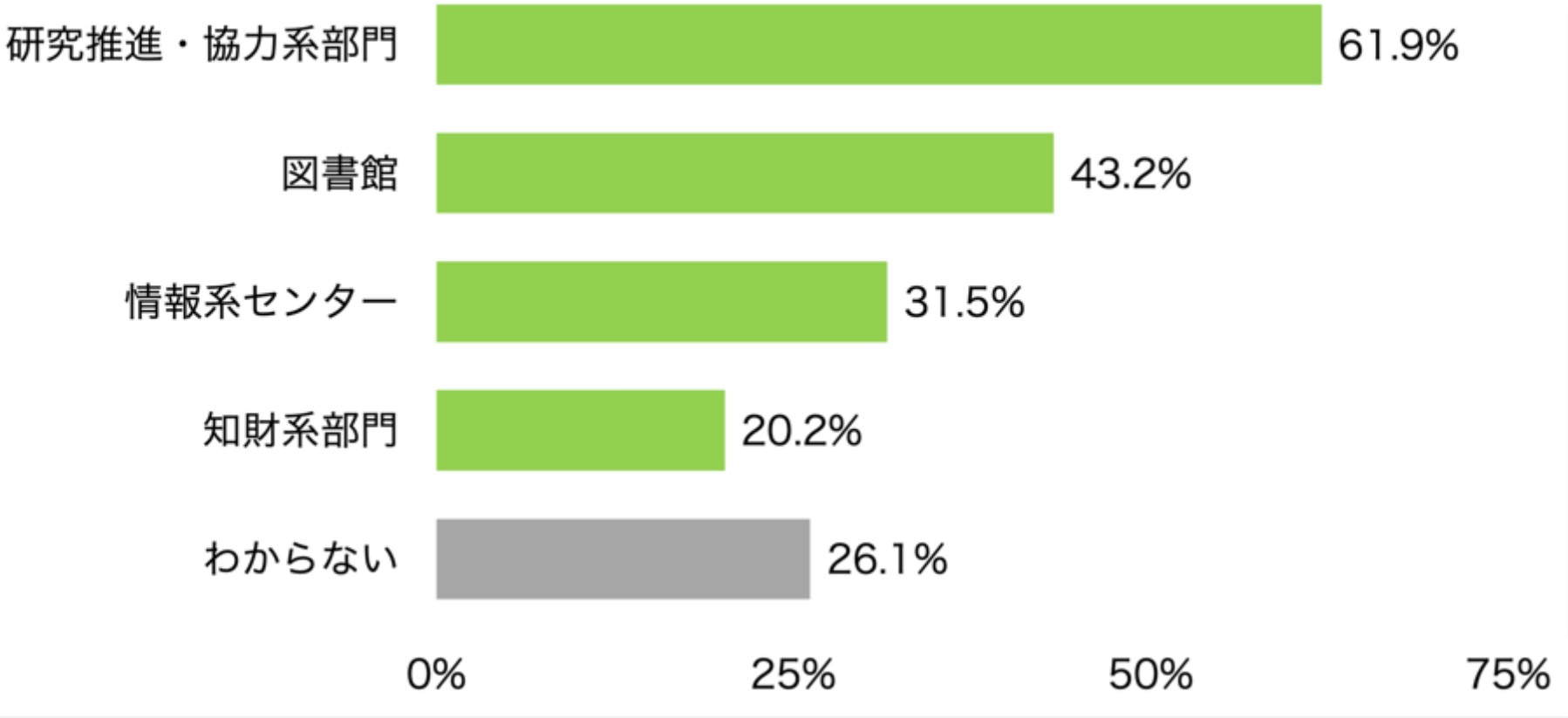
- 体制が構築され、機関として実施している
- 一部の部局で議論・実施されている
- 検討のための委員会、ワーキンググループ等が組織されている
- 必要性は認識しているが、具体的な動きはない
- わからない

- あり：23.0%
  - 構築済：8.5%
  - 一部：8.8%
  - WG：5.7%
- なし：58.5%
- わからない：18.5%

注：「体制が構築され、機関として実施している」（8.5%）には、研究データの10年保存に関する回答が含まれている可能性あり

3-1.国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査(2)

Q13.研究データ管理のステークホルダーになり得る部署、または既に関与している部署(複数選択可)



・研究推進・協力系部門 218 件
・図書館 150 件
・情報系センター111 件
・知財系部門 71 件

n＝352

※「わからない」と同時に別の選択肢を選んだ回答あり(2件)

4.その他のAXIES-RDM部会との連携事業

AXIES-JPCOAR研究データ連絡会を設立し、各種連携事業を実施

1）AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS（第2回：リピートセッション）

日時：2021年11月30日(火) 9:00-12:30、オンライン開催（定員20名：先着順）

https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/event/20211130ws?authuser=0

2）AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS（第1回）※終了

日時：2021年9月28日(火) 9:00-12:00

https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/event/20210928ws?authuser=0

3）AXIES「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」（2021年7月1日公開）への協力（用語集の作成） https://rdm.axies.jp/sig/70/

4）AXIES-JPCOAR研究データワークショップ ※終了

日時：2021年2月19日(金) 9:30-12:00